

ストックの4～5月出荷作型に適した 播種時期とトンネル高温処理期間

和歌山県農業試験場

課題

和歌山県のストック生産では、近年、4～5月出荷をねらった作型を導入する動きがある。

しかし、この作型は低温期の栽培となり、低節位で発蕾することによって切り花長が短くなりやすいため、品質の低下が問題となっている。

目的

定植後の苗をトンネルで被覆して高温処理を行うことで、開花を抑制し、切り花長の確保と品質の向上を図る技術を開発する。

ここでは、4～5月出荷作型に適した播種時期とトンネル高温処理期間について検討した。



結果 12月播種、1月播種ともに4週間の高温処理で切り花品質が向上

播種期	品種	処理期間	発蕾日 (月/日)	発蕾日数 ^z (日)	開花日 (月/日)	到花日数 ^y (日)	節数 (節)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	茎径 (mm)	花穂長 (cm)
12月	アイアン ホワイト	無処理	3月20日	62.6 a ^x	4月13日	86.9 a	34.9 a	51.8 a	67.7 a	6.3 a	6.2 a
		4週間	3月27日	69.3 b	4月17日	90.4 ab	44.9 b	67.2 b	94.8 b	7.1 b	6.8 ab
		7週間	3月25日	67.5 ab	4月19日	92.5 b	46.3 b	66.6 b	77.9 a	6.7 ab	7.7 b
	アイアン チェリー	無処理	3月21日	63.8 a	4月16日	89.2 a	36.8 a	64.6 a	90.8 ab	6.8 a	7.4 a
		4週間	3月27日	69.5 ab	4月17日	90.0 a	46.8 b	73.3 b	94.2 a	6.8 a	6.0 ab
		7週間	4月2日	75.6 bc	4月23日	96.5 b	52.1 b	73.1 b	81.5 b	7.3 a	5.8 ab
1月	アイアン ホワイト	無処理	4月8日	53.4 a	4月25日	70.2 a	39.4 a	45.4 a	46.3 a	6.1 a	3.7 a
		4週間	4月15日	60.1 b	5月1日	76.9 b	51.2 b	62.6 b	58.8 b	6.7 b	4.1 b
		7週間	4月21日	66.4 c	5月9日	84.1 c	59.5 c	66.6 c	42.1 a	5.6 c	4.3 c
	アイアン チェリー	無処理	4月9日	54.1 a	4月26日	71.8 a	40.4 a	55.9 a	63.5 a	6.9 a	4.6 a
		4週間	4月14日	59.5 b	5月1日	76.9 b	48.4 b	65.0 b	70.2 a	7.6 b	7.2 b
		7週間	4月21日	66.7 c	5月6日	81.8 c	55.8 c	64.4 b	49.6 b	6.0 c	4.7 c

12月播種: 12月2日播種、1月17日定植、1月20日高温処理開始

1月播種: 1月10日播種、2月14日定植、2月17日高温処理開始

z: 定植から発蕾までに要した日数

y: 定植から開花までに要した日数

x: 表中のアルファベットは、同一品種内において異なるアルファベット文字間にTukeyの検定により5%水準で有意差があることを示す

発蕾・開花

高温処理をすることで、発蕾・開花が遅くなる。
処理期間が長くなるほど開花が遅くなる。

節数

高温処理をすることで、節数が増加する。
処理期間が長いほど節数が多い。

切り花長

高温処理をすることで、切り花長が長くなる。
7～10週間の処理よりも、4週間の処理でより長くなる傾向がみられる。

切り花重

4週間の高温処理で、最も切り花重が大きくなる。
7週間、10週間の処理を行うと、無処理と同等か、または小さくなる。

茎径および花穂長

高温処理との関係性は判然としない。

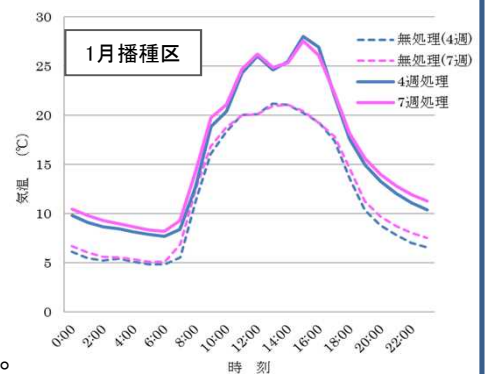
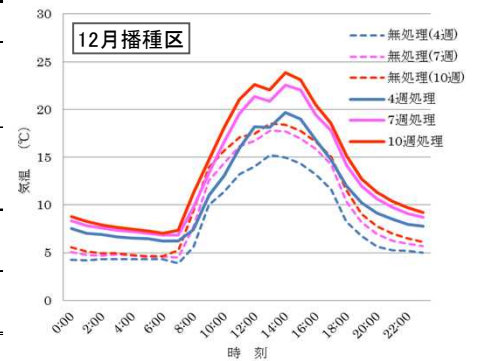


図 各処理区における処理期間中の気温の推移
(1時間ごとに測定した気温の全平均値)

考察

トンネルで高温処理を施すと、その処理期間が長いほど、発蕾日が遅くなり、節数も増加する。また、それに伴って切り花長も長くなることにより、切り花品質が向上する。

これは、ストックには低温で花芽分化する性質があるため、トンネルによる高温処理をすることによって、花芽の分化が遅延したことによる。

